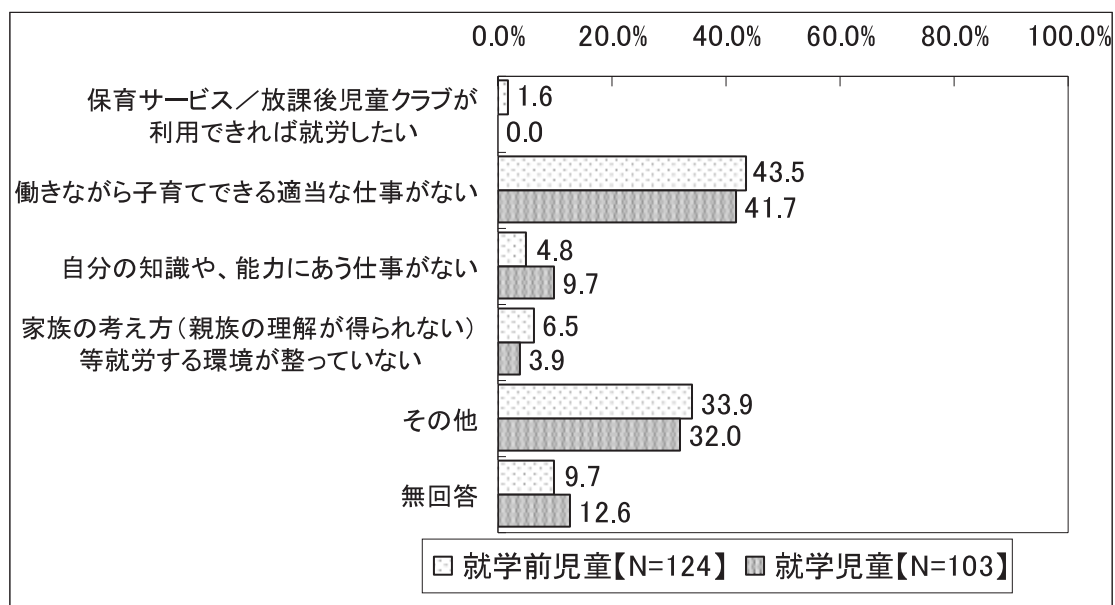
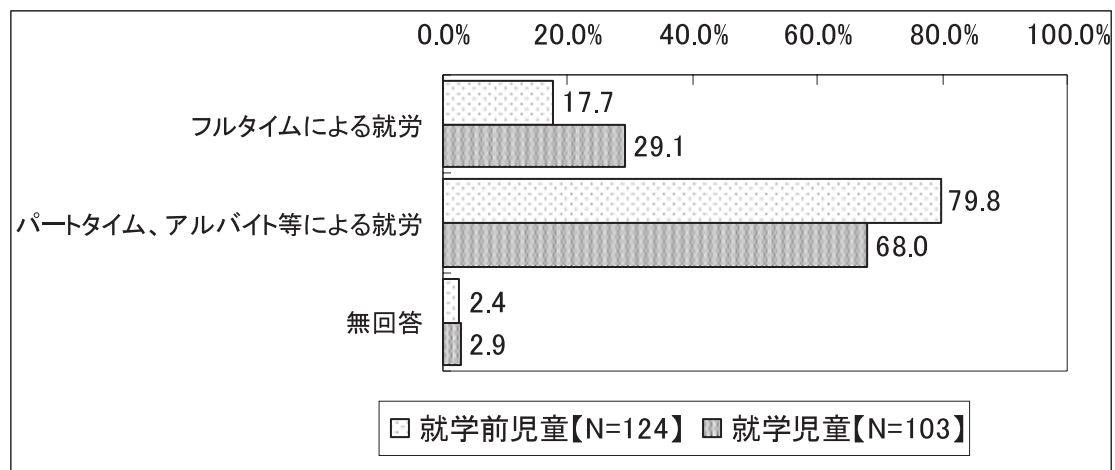




(7) 母親の希望する就労形態について

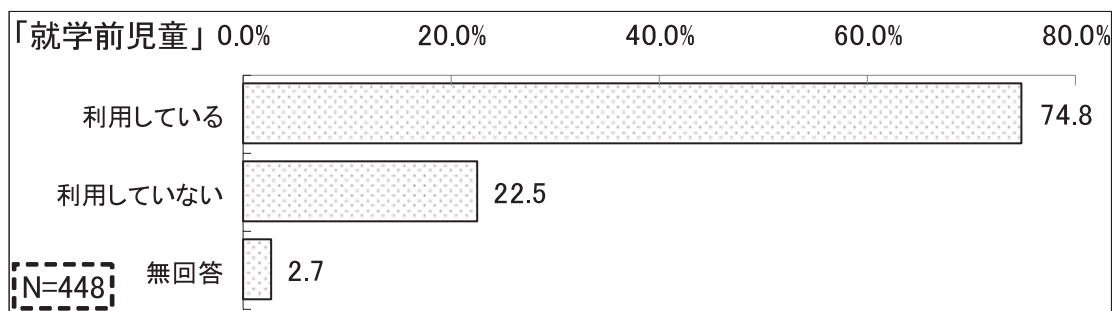
母親の希望する就労形態をみると、「就学前児童」および「就学児童」とともに「パートタイム、アルバイト等による就労」が最も多くなっています。

また、「就学前児童」に比べ「就学児童」の母親が「フルタイムによる就労」を希望していることがうかがえます。



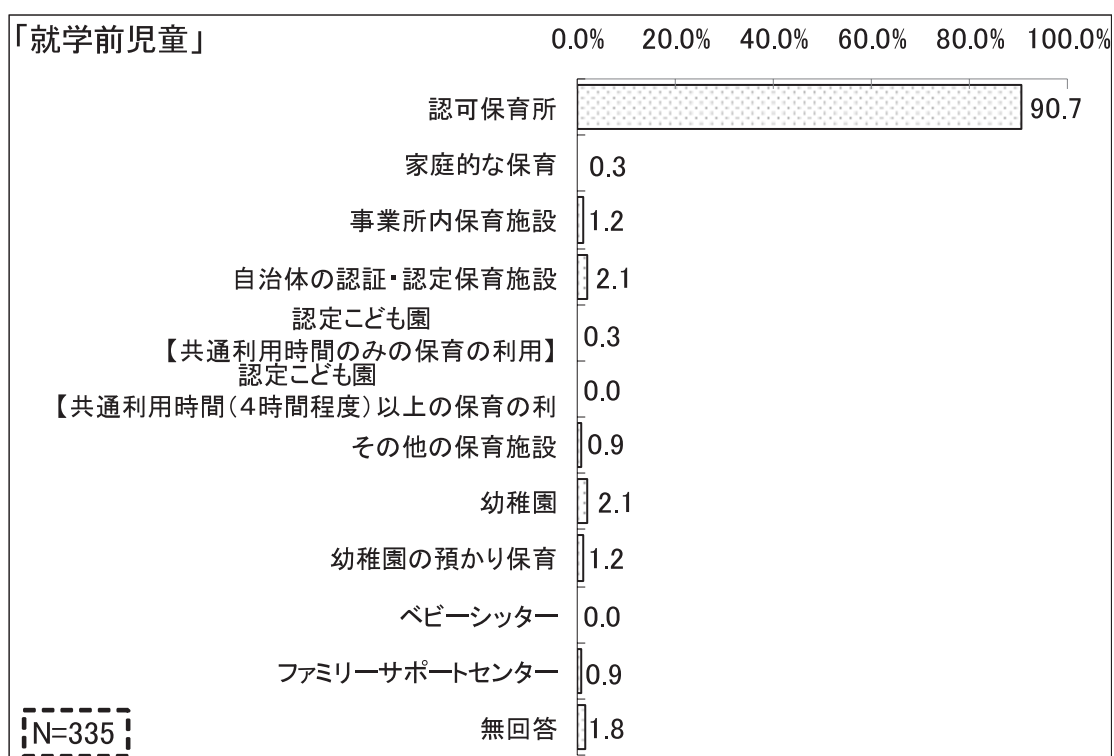
(8) 保育サービスの利用の有無について

保育サービスの利用の有無をみると、「利用している」と答えた方が7割を超えており、「利用していない」と答えた方は2割弱となっています。



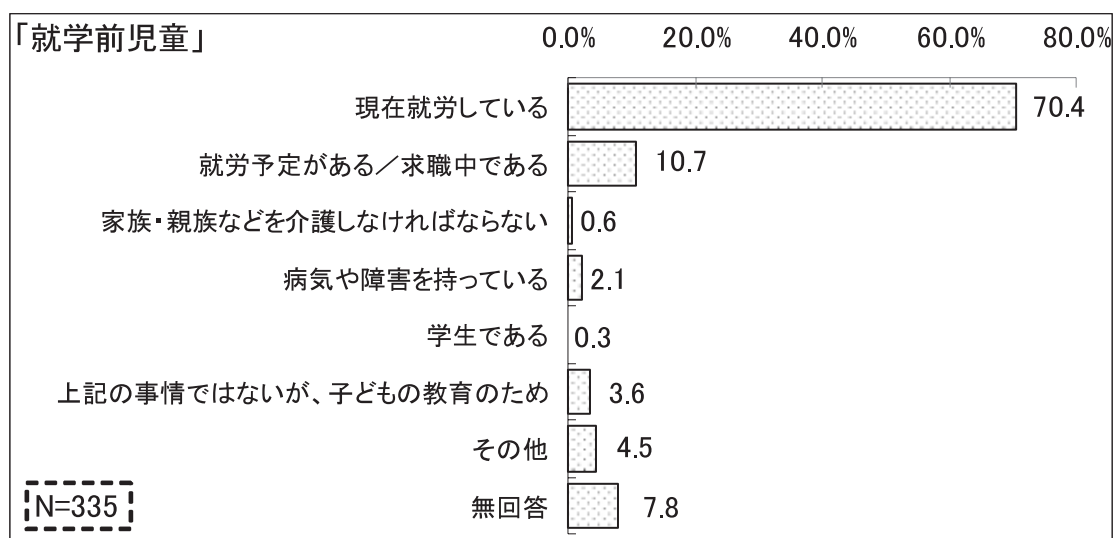
(9) 利用している保育サービスについて

利用している保育サービスの施設をみると、「認可保育所」が最も多くなっています。



(10) 保育サービスを利用している理由について

保育サービスを利用している理由をみると、「現在就労している」、「就労予定がある／求職中である」を合わせると8割を超えおり、就労を理由とした利用がほとんどを占めています。母親の就労を保障するために、保育サービスの重要性がうかがえます。



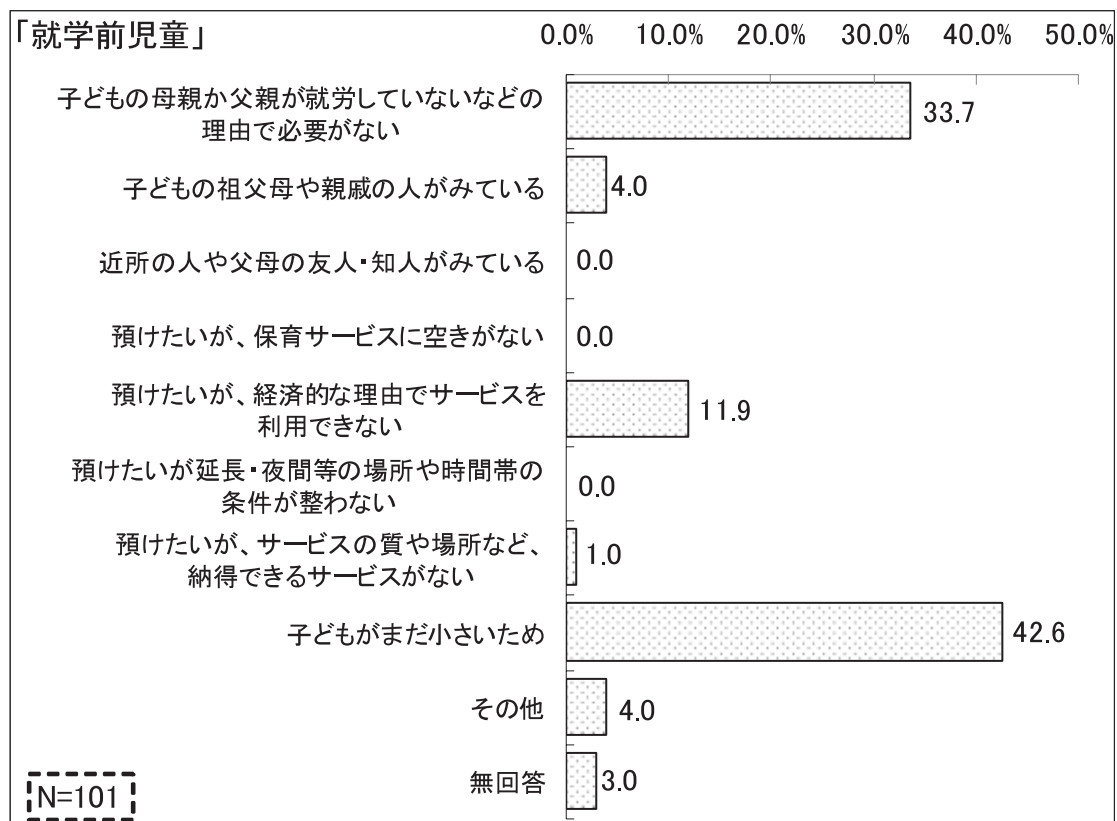
「保育所での運動会」の様子



(11) 保育サービスを利用していない理由について

保育サービスを利用していない理由をみると、「子どもがまだ小さいため」が最も多くなっており、次いで「子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で必要がない」、「預けたいが、経済的な理由でサービスを利用できない」の順となっています。

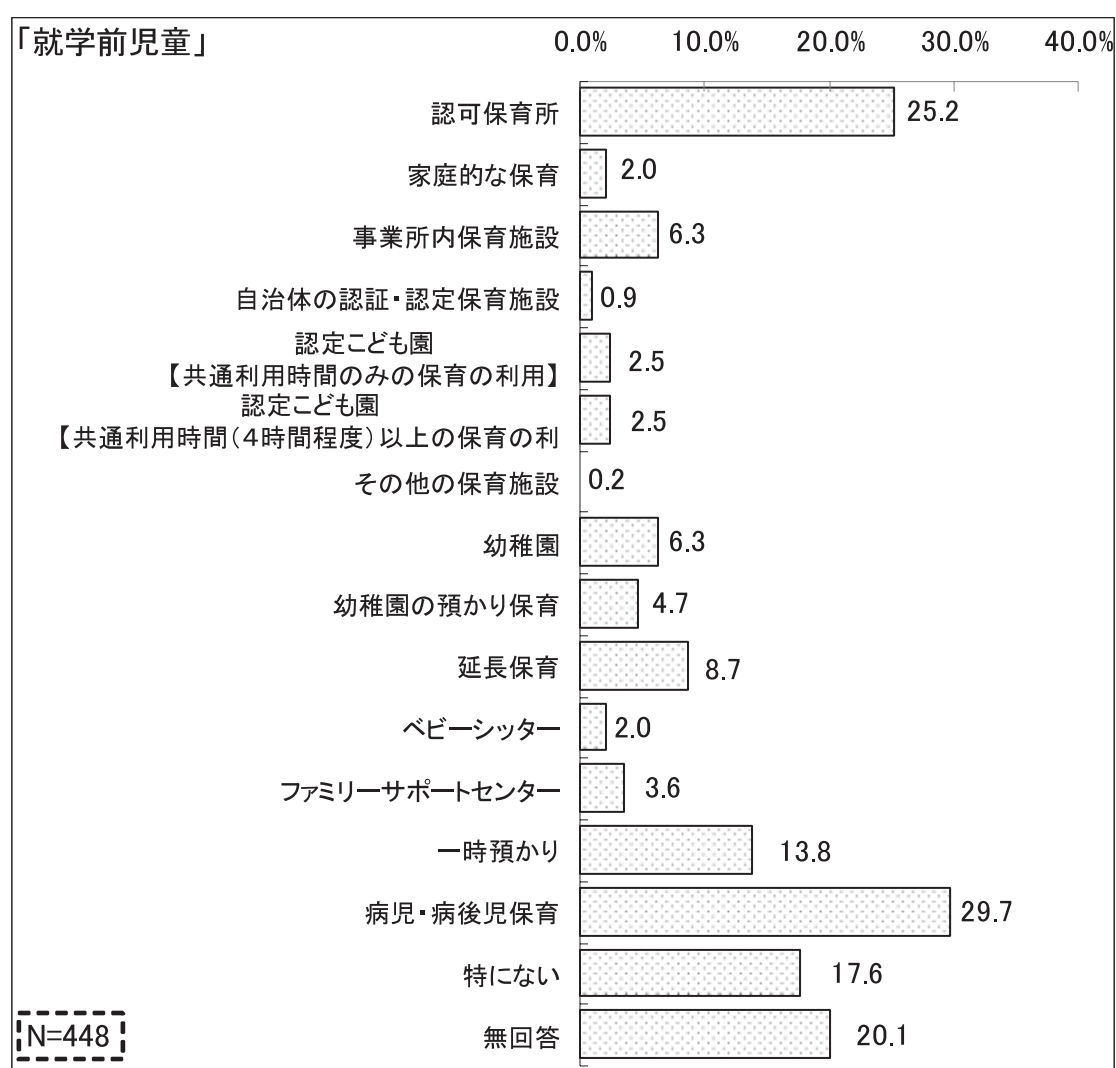
子どもの出産、育児で母親が離職し、家事労働に従事している状況がうかがえます。



(12) 今後、利用したい保育サービス・今、不足している保育サービスについて

日中の定期的な保育サービスの施設でみると「認可保育所」が最も多くなっています。現在、佐川町では待機児童はいないものの、幼稚園がない本町にとって、今後においても基本的な保育サービスとして体制を維持していくことが求められます。

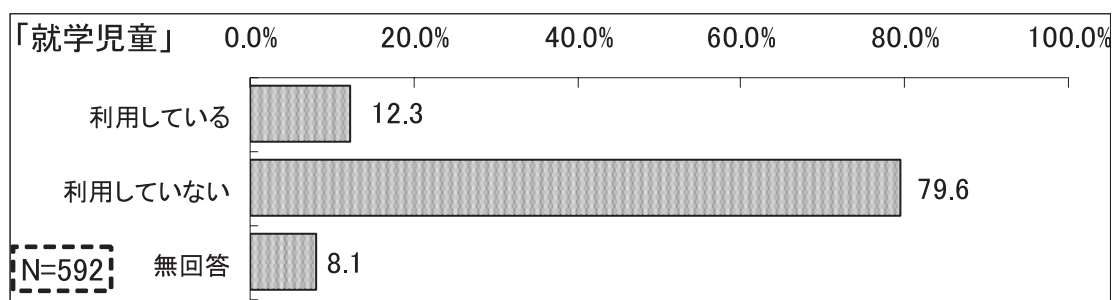
また、その他の保育サービスでは、「病児・病後児保育」が最も多くなっており、次いで、「一時預かり」の順となっています。「病児・病後児保育」は現在実施しておらず、不足している保育サービスとして、ニーズが多くなっていることが分かります。



(13) 放課後児童クラブ利用の有無について

現在、放課後児童クラブは佐川小学校でしか実施されていない（※）ため、町全体としては、「利用していない」が最も多く約8割となっています。

一方、利用していると答えた方の割合も12.3%となっており、実数では73名に上っています。1箇所では実施していないことを考慮すると、多くの児童が利用している実態がうかがえます。

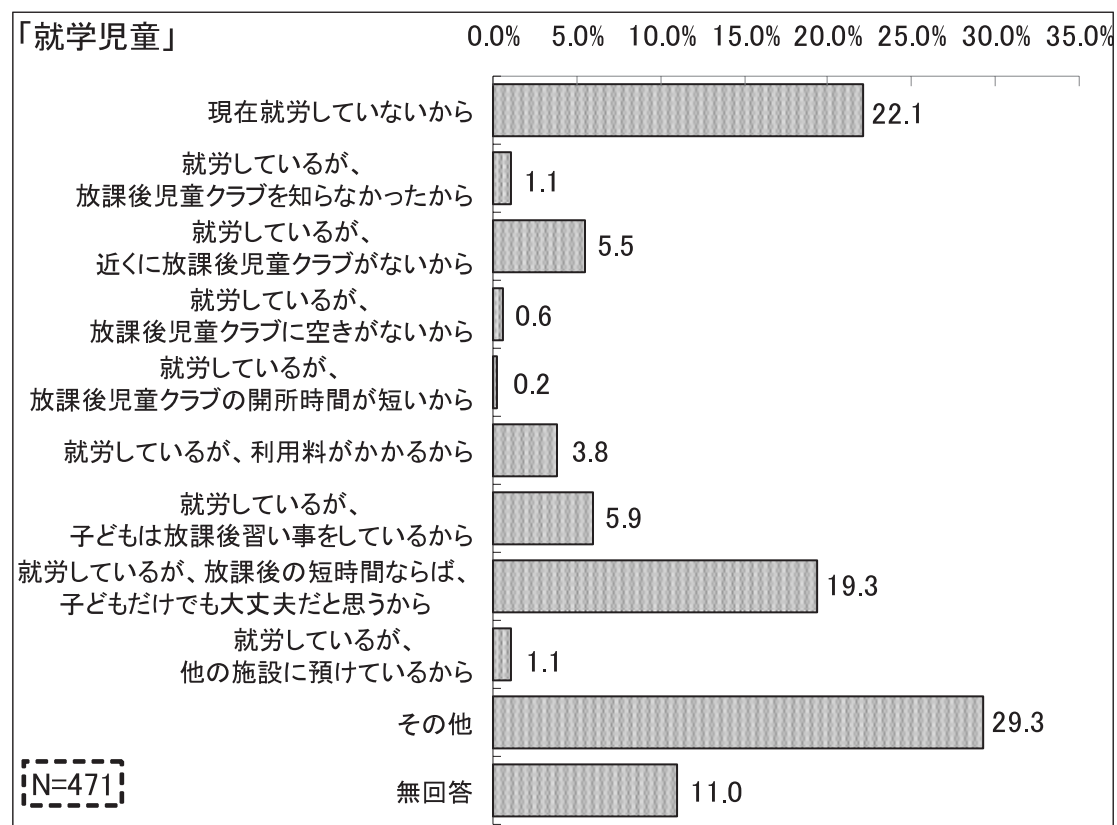


(14) 放課後児童クラブを利用していない理由について

放課後児童クラブを利用していない理由をみると、佐川小学校以外の児童の影響などによって「その他」が最も多くなっています。

次いで、「現在就労していないから」「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うから」の順となっています。

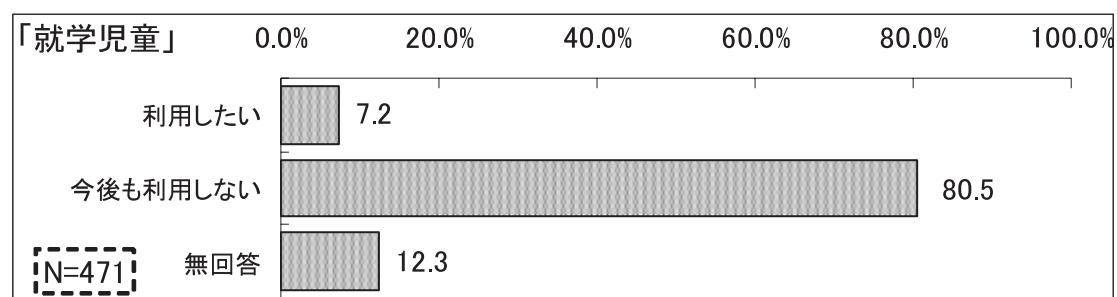
※ 放課後児童クラブとは、ナウマンクラブと呼び、佐川小学校で実施しています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下で、子ども（小学1～3年生）の生活の場を提供するものです。



(15) 放課後児童クラブの利用意向について

放課後児童クラブを利用していない方について、今後の利用意向をみると、「今後も利用しない」が最も多くなっています。

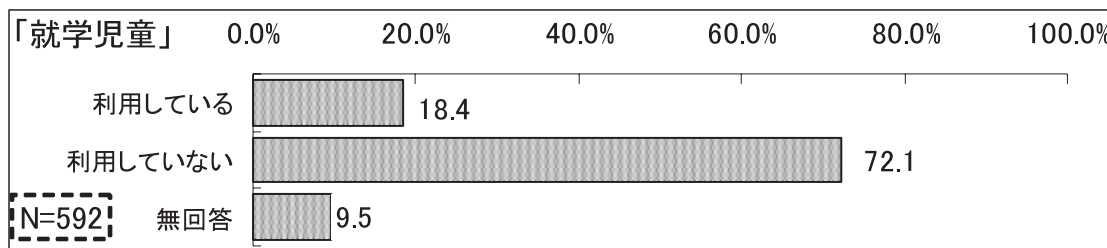
一方で、利用したいと答えた方の割合も7.2%に上っており、実数では34人の方が利用意向を示しています。現在利用している方を含めると、今後においても、継続して多くのニーズがあることがうかがえます。



(16) 放課後子ども教室利用の有無について

放課後子ども教室利用の有無をみると、町内で一番多くの児童がいる佐川小学校で実施されていないこともあり、「利用していない」が最も多く7割を超えています。

一方で、利用していると答えた方の割合も18.4%となっており、実数では109人にも上っています。

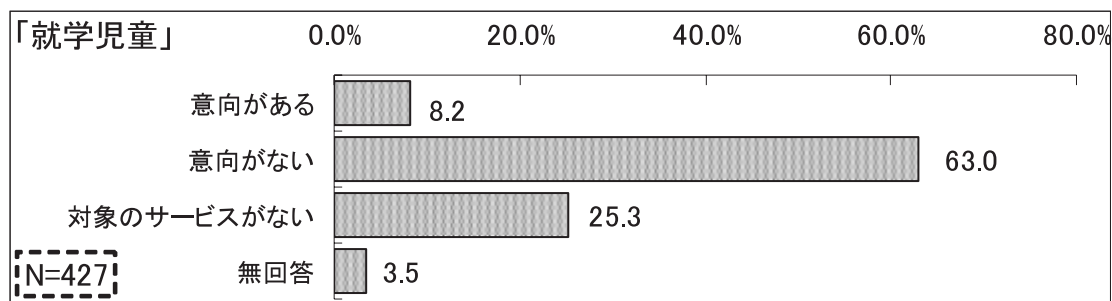


(17) 放課後子ども教室の利用意向について

放課後子ども教室を利用していない方について、今後の利用意向をみると、「意向がない」が最も多く6割を超えており、「対象のサービスがない」が続いています。

一方で、「意向がある」と答えた方の割合も8.2%に上っており、実数では35人の方が利用意向を示しています。現在利用している方を含めると、今後においても、継続して多くのニーズがあることがうかがえます。

少子化が進み、近くに遊び相手がいなかったり、保護者が就労等で不在となる家庭が増えたりすることが見込まれ、ニーズを踏まえた子どもの居場所づくりを進める必要があります。

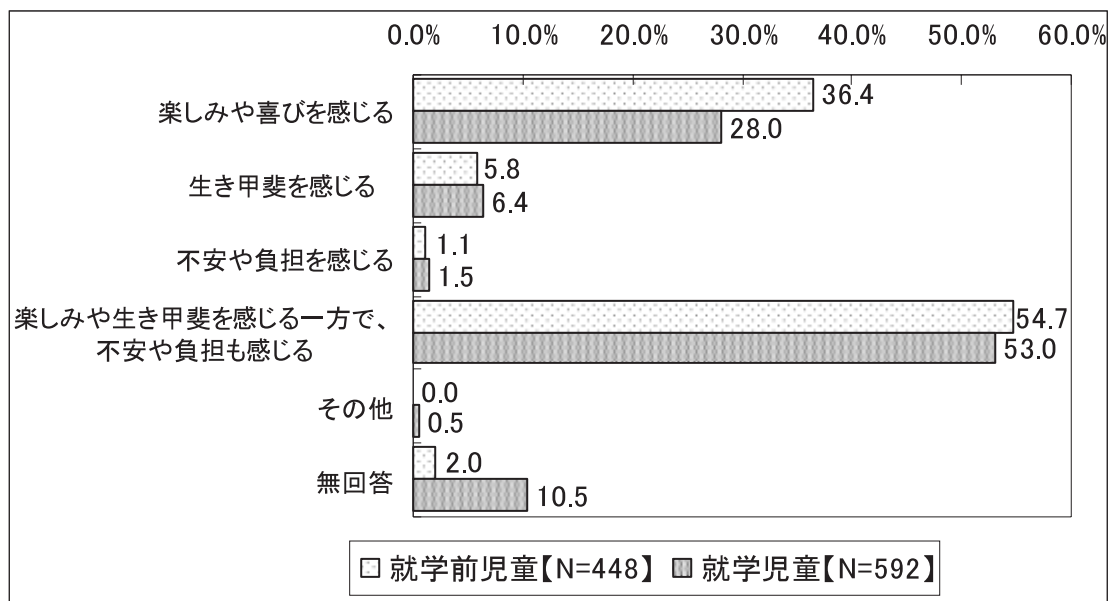


※ 放課後子ども教室は、斗賀野小学校、尾川小学校、黒岩小学校で実施しています。1年生から6年生まですべての子どもを対象として、安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取り組みをするものです。

(18) 子育てに対する捉え方について

子育てに対する捉え方をみると、「就学前児童」および「就学児童」とともに「楽しみや生き甲斐を感じる一方で、不安や負担も感じる」が最も多く、過半数を超えています。

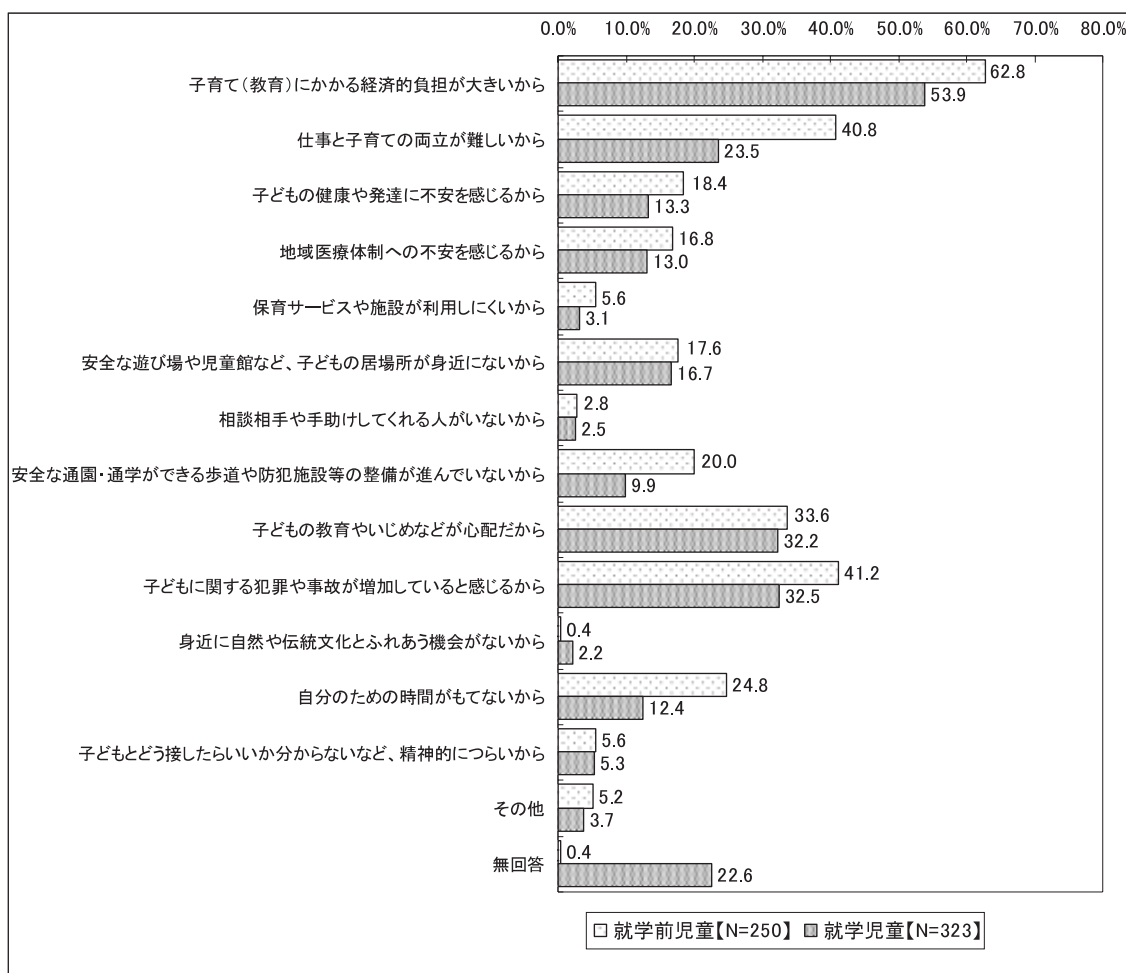
次いで、「楽しみや喜びを感じる」「生き甲斐を感じる」の順となっています。



(19) 子育てで不安や負担を感じる理由について

子育てに対する捉え方について、「不安や負担を感じる」「楽しみや生き甲斐を感じる一方で、不安や負担も感じる」と答えた方に、不安や負担を感じる理由をたずねると、「就学前児童」および「就学児童」ともに「子育て（教育）にかかる経済的負担が大きいから」が最も多くなっており、低迷する近年の社会経済の影響がうかがえます。

次いで、「就学前児童」では「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じるから」と「仕事と子育ての両立が難しいから」、「就学児童」では「子どもに関する犯罪や事故が増加していると感じるから」と「子どもの教育やいじめなどが心配だから」の割合が多くなり、子どもの発達の段階で少しずつ変化してきていることがうかがえます。

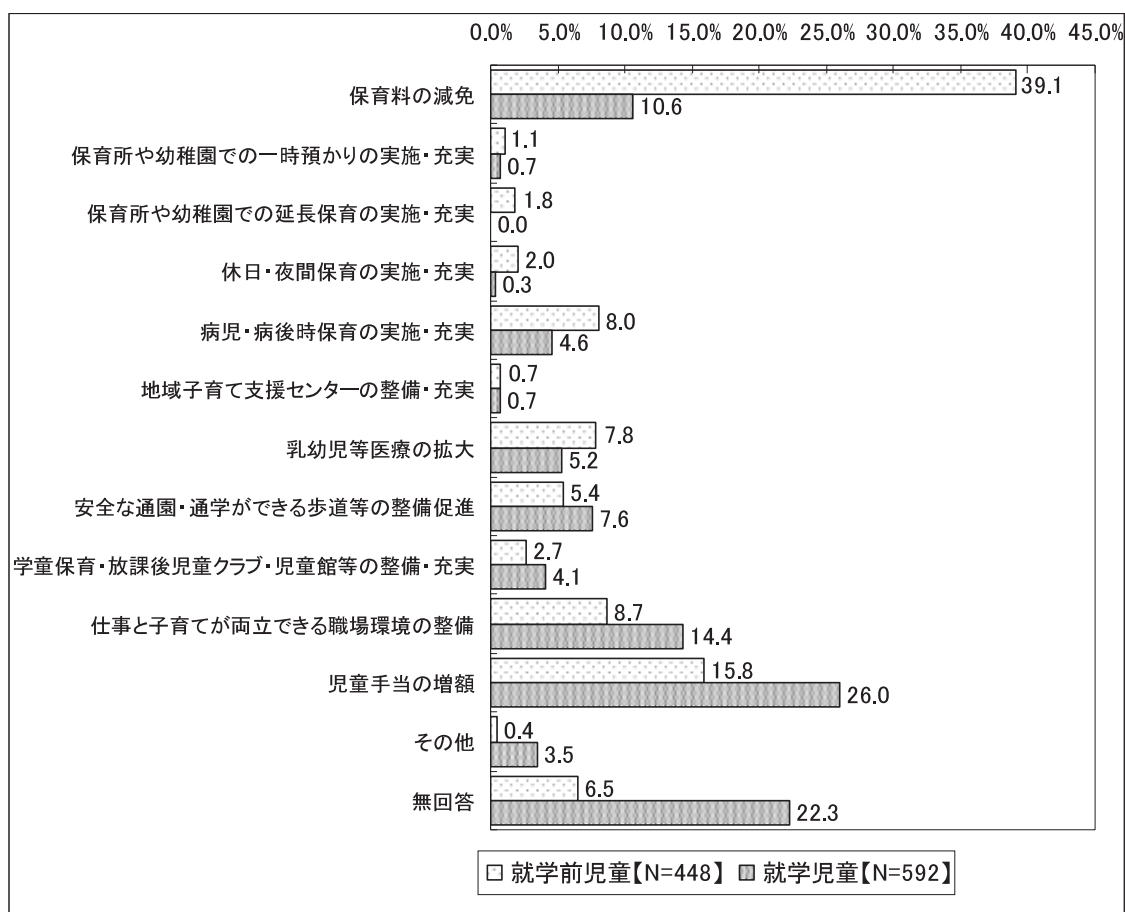


(20) 今後一番望まれている子育て支援策について

一番望まれている子育て支援策は、「就学前児童」では「保育料の減免」が最も多く、次いで、「児童手当の増額」「仕事と子育てが両立できる職場環境の整備」の順になっています。

また、「就学児童」では「児童手当の増額」が最も多く、次いで「仕事と子育てが両立できる職場環境の整備」「保育料の減免」の順となっています。

(11)での「今後、利用したい保育サービス・今、不足している保育サービスについて」と合わせて、今後の子育て支援を実施するうえでの課題として捉えることが必要です。



第2章

前期計画の達成状況

1 子育て支援サービス

(1) 子育て支援サービスの充実

事業名	平成 17～21 年度の目標	近年の状況	評価及び反省点	担当課名
佐川町地域保育所 子育て支援センター	近年、幼児虐待等深刻な問題が多くなっており、今後継続して実施していくにあたり、更に内容の充実に努めていきます。	週5日の事業実施。子育て支援センターでの実施のほか、平成19年度より健康福祉センターかわせみでも週1回実施。そのほか、かわせみで行う乳幼児健診等にも職員派遣するなど、活動範囲を広げています。	内容の充実は図れていますが、かわせみでの利用者にやや固定化が見られます。	健康福祉課
子育て短期支援事業 (ショートステイ)	今後は事業の周知に努めていきます。	引き続き、継続して実施しています。一般的な認知度はまだ低く、利用頻度は少ない状況です。平成21年度に1件の実績があります。	周知が不足しています。	
児童手当	今後も国の制度に合わせて実施していきます。	国の制度と同様に実施しています。平成21年度現在の制度…小学6年生まで。第1、2子月額5,000円（ただし、3歳未満は10,000円）、第3子10,000円	国の制度に合わせて実施できています。	